

氏の話によると、彼は海藻学者であると同時にこの地区の Bishop であり、銀行家であり、又この植物園創始者でもあったと言う。大学本部へ行くと、講堂には此処出身の有名人の肖像画が多数飾られ、AGARDH 父子の肖像もあった。又入口に日本の柔道講習の大きな張紙があった事も、思いかけなく注目された。

夜は創立 500 年と言う古い Stäket レストラン (壁に昔の物々しい銃剣等が飾ってある) で歓迎晩餐会を開いてくれた。KYLIN 夫人及び令息、PETERSON 夫妻、HALLDAL 氏が集り、蠟燭の火の下で Swedish rhapsody の静かな奏楽を聞きながら秋の夜長を楽しんだ。

思い出多いルンドを後にして、再び Malmö 空港からストックホルムに向う。夜になってこの街に近づくと、何と美しい事であろう。機上から見ると住宅の灯が宛も螢の様に輝き、五色の光芒交錯する中を Bromma 空港に着陸した。此処は如何にも豊かな国を思わせ、20 階以上もある宏壮な学生寄宿舎、北方民族博物館、生物博物館、野外大博物館スカンセン等を訪れたが郊外の自然美は又特に美しかった。

此処から汽車に 1 時間程乗って、この国最古(大学は 1477 年創立)最大の大学町として有名なウプサラに行く。此処の植物園の一室には、待望のアサクサノリの type が保存してある。ELIAS MELIN 博士の御世話で、SKUJA 博士の研究室でこの標本を精査した(詳細は後日別報予定)。1807 年完工した植物学教室は、正面から見ると恰もギリシア神殿を思わせる巨大なドリア式円柱が立ち並び、変った建物であった。半分は室内植物栽培場、半分は腊葉館になり、又所謂 Linnaean Hall がある。SANTESON 氏の案内で此処に保存されている THUNBERG の日本近海産 *Sargassum thunbergii* O. KUNTZE, *Sargassum enerve* C. AGARDH 等の標本を主に検べた。昼休みに園内を歩いてみると、*Campamula*, *Saxifraga* 等の多くの植物が、大きな擂鉢状の穴の中に生育し、又 *Picea* の壮大な並木が続いて、遙かにウプサラ城を望む風景等忘れ得ぬ印象を受けた。(続く) (三重県立大学水産学部)

学会録事

評議員選挙開票結果

去る 5 月末日をもつて本会評議員選挙を終へ、6 月 5 日に開票いたしましたところ

下記の9氏が評議員に当選いたしました。

北海道地区	木下虎一郎,	時田 鰒	
東北地区	黒木 宗尙		
関東地区	新崎 盛敏,	片田 実	
中部地区	瀬木 紀男		
近畿地区	広瀬 弘幸		
中国・四国地区	猪野 俊平		
九州地区	瀬川 宗吉		(敬称略)

日本藻類学会懇談会

4月2日、東京に於ける日本水産学会を機に午後5時より東京大学教養学部同窓会館に於いて本会懇談会を開催した。出席会員は22名、須藤俊造幹事の司会により会が始り、山田幸男会長の挨拶があつて後会食に移り、本会会誌「藻類」の売価について話し合い暫定的に1冊130円にしてはどうか、と云ふ事になり秋の総会で決定しようとする事になつた。更に自己紹介等が和かに行はれた後、瀬木紀男氏が「欧州を巡りて」と題してカラースライドにより欧州各国の藻類学、藻類学者について興味あるお話をされた。後、時田鰒氏が欧米の藻類学者等について同じくカラースライドによつてお話しされ、9時すぎ散会した。

会員移動

(昭和34年4月1日より7月15日まで)

役員移動

今般、昭和34年7月1日付をもつて榎本幸人氏が庶務幹事を委嘱された。